

平成19年度事業報告書

学校法人新潟青陵学園

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 序文 | 1 |
| 1 教育方針・教育目標 | 3 |
| 2 沿革 | 6 |
| 3 設置する学校の概要 | 7 |
| 1) 設置する学校・学部・学科等 | 7 |
| 2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況 | 8 |
| 3) 役員・教職員の概要等 | 9 |
| 4 事業の概要 | 11 |
| 1) 当該年度の事業（経営）の概要 | 11 |
| 2) 当該年度の主な事業の目的・計画 | 17 |
| 3) 当該計画の進捗状況等 | 18 |
| 5 財務の概要 | 23 |
| 1) 平成19年度決算額 | 23 |
| 2) 経年比較等 | 25 |
| 3) 過去5か年間の資産総額（純資産額）の推移 | 27 |

平成19年度事業報告書

学校法人新潟青陵学園

平成4年のピーク時の18歳人口204万人は、今では130万人台に急激に減少している。この間は、浪人人口30万人と進学率の上昇で救われてきたと言って過言でない。一方、教員人件費、教育研究経費ともに大きく膨らむという贅肉過多の負の遺産をもたらしている。今後は120万人台から100万人台に減っていく中で、全体経費が膨らんでいくことのダメージは大きいと言える。

入学定員の未充足は大学で4割、短大6割、高校8割と悪化している。帰属収入で消費支出を賄えない学校法人が、大学短大651法人のうち189法人、割合で29%に及んでいる。定員充足率で見て四国（83.5%）、中国（88.7%）、北関東（92.3%）が特に厳しい状況下にある。新潟県内でも私立大学11校中5大学が定員割れとなっている。

時代はまさに右肩下がりの時代に突入して収入増が見込めない、私学助成の増額も難しい、マスプロ教育は許されない、一方で米国や豪州の大学が日本進出を計画し、教育者や研究者は海外に流出するなどして国際的にも大学間競争が激しくなっている。

文部科学省は遠山プランをきっかけに競争原理を導入したが、知識基盤社会を迎えて高等教育の質を下げることができないことから、一転して“適度な競争と適度な連携”を政策に据えて大学間の協調を求めるようになってきた。官製市場（医療、教育、福祉）における規制改革の見直しと受け取れなくもない。

一方で中央教育審議会は、全入時代を迎えての対応策を講じるための議論を始めている。18歳人口減によって入試圧力が無くなったために、学力が低下して学士教育の質が問われていることに着目してのことである。教養教育の重視、基礎的能力の教育は、学士課程教育の改善・再構築に欠かせないとしている。

また、中央教育審議会審議経過骨子による学士力の参考指針として、学習成果では、例えば、多文化理解、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、市民の社会的責任等々を掲げている。質保証の枠組みづくりでは、学習成果や到達目標の設定、コア・カリキュラム、教材の研究開発などを掲げている。認証評価のあり方についても、認証評価機関の水準が国際的に高くないと、評価を受けた大学の水準も問われかねないし、大学の質の改善も遅れてしまうという議論もある。

次に、文部科学省は、まとまりのある体系的なプログラム（質を保証する観点から一定の要件を求めている）に基づく履修証明制度を制度化した。また、私学助成では耐震補強事業から耐震改築の補助化の議論が進んでいる。科研費等の競争資金の直接経費の獲得は、副次的な間接経費をもたらすことから私立大学経常費補助金等の基盤経費以上に注目されている。地球温暖化対策は人類共通の課題でもある。全私学連合は文部科学省からの要請を受けて、CO₂の対前年比1%減の自主行動計画を立案し、傘下の学校に対して自主的な取り組みを求めている。

これら教育をめぐる現下の情勢を受けて、平成18年4月に開設した大学院臨床心理学研究科は、平成19年4月10日付けで日本臨床心理士資格認定協会が実施する臨床心理士の資格試験に関する受験資格を有する第一種指定大学院に認定された。院生（一期生）に対しては教育指導・研究指導を行っ

て10人に修士（臨床心理学）の学位認定を行った。また、大学院の附属機関である臨床心理センターの相談業務は年間千件を超える状況となっている。

さらに大学院および大学では、教育研究活動の一層の改善をはかるために平成18年度に自己点検・評価をそれぞれ実施し、平成19年度に財団法人大学基準協会による大学評価（メンバーシップの地位）と認証評価（7年に1回の義務付け）を受けた。評価の結果、新潟青陵大学は大学基準協会の大学基準に適合していると認定された。文部科学大臣に報告されるとともに平成20年3月24日に記者発表が行われ社会に公表された。平成20年4月からは大学基準協会の賛助会員校から正会員校に移行した。

大学単独事業では、平成19年度「現代GP」に“メンタルフレンド活動による地域福祉展開”サブタイトル、“ひきこもり不登校児や長期入院児童の教育・福祉・看護への学生参加型トータルケアシステム”が採択された。また、新潟県の大学「知の財産」活用事業に三つの調査研究事業「産科医不足下において助産師が自立したケアを行う体制づくりの基礎研究」「新潟県がん登録の充実と有効利用」「障害児の親に対する社会的支援に関する実態調査」が採択されて教育研究活動が活発に展開された。

次に、平成18年度から準備を進めてきた認定看護師研修センターの立ち上げも順調に進み、平成19年8月には社団法人日本看護協会に教育機関認定申請書を提出し、同年11月に認定看護師教育機関（認定看護分野：皮膚・排泄ケア）として認定された。認定の結果、認定看護師研修センターの発足（平成20年10月）が正式に確定した。

大学と短期大学との連携事業としては6号館「校舎」の新築工事が平成19年度と平成20年度の2か年継続事業として計画（鉄筋コンクリート造地上3階、建築面積1,085.73㎡、延床面積3,159.51㎡）し、平成20年2月工事着手、同年9月完成の予定で進んでいる。また、ファカルティ・デベロップメント（FD）が努力義務から義務化されて、大学院・大学・短期大学の全教員が平成19年11月に授業見学を実施して、平成20年度の「授業公開」へと発展を見ている。

事務系職員によるスタッフ・デベロップメント（SD）活動も積極的に展開されている。省エネ・地球環境保全タスク・フォースによるCO₂削減（平成19年度を基点年にして対前年比1%削減、5年間で5%削減）に向けての政策提言は事務系9人のメンバーでまとめられた。

なお、新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科の定員増（100人→110人）と新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科の定員増（100人→130人）は、何れも文部科学省、厚生労働省の両省から認可された。

高等学校にあっては、学校評価の意義を全教職員に浸透させると同時に学習者および保護者のニーズに沿って学力向上、進学指導により積極的な改革・改善の検討が進んだ。

以上のように平成19年度の諸事業の実施は、着実に進展しその実績を残すこととなった。なお、序文に収められない事業の実績は、「事業の概要」「財務の概要」の項において詳しく記載することにした。

以下に、教育方針・教育目標、沿革、設置する学校の概要、事業の概要、財務の概要を示す。

1 教育方針・教育目標

<新潟青陵大学大学院・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部>

本学では、“教育方針・教育目標”を設定して、「本学が目指す学生の姿」「本学が目指す教職員の姿」並びに本学の設置母体である新潟青陵学園の「本学園が目指す学園の姿」の三つのアドミッション・ポリシーを以下のように提示している。

本学の教育方針・教育目標

一 本学が目指す学生の姿

- 1 学生は、尊敬されるに足る人間として自ら恃(たの)むところを確かにするとともに、自己の実現に努力を惜しまない。
 - (ア) 自他の生命に対する畏敬の念を持ち、お互いに生かされ、助けあっていることに感謝し、広い視野と慈しみの心を持って人間及び社会の本質を理解できる。
 - (イ) 様々なものに感動する心を持ち、それを言葉や音楽、絵画、身体などを通じて創造的に表現できる。
 - (ウ) 周囲の現実を把握し、社会にあっては上司、同僚、家族、学内にあっては教職員、友人などと認識を共有し、かつ自己の意見を発表してこれを理解させることができる。
- 2 学生は、社会人として必要な基本的教養と礼儀を身に付けている。
 - (ア) 隣人に対して、笑顔で気持ちよく挨拶することができる。
 - (イ) 相手の立場を尊重し、意見に耳を傾け、時間や約束が守れる。
 - (ウ) 自己責任の原則を理解し、自分の態度や習慣、身だしなみを客観的に評価できる。
 - (エ) 弱者を助けるためや、住みよい環境整備のために自らの犠牲をいとわないなど、公共の意義を理解している。
 - (ア) 生涯にわたって継続して培う意義がある趣味を持っている。
- 3 学生は、新入社会人として必要な知識、技能を身に付けている。
 - (ア) 専門職としての見識と能力を保持し(必要な検定や資格を取得する。)さらにその向上に努めている。
 - (イ) 国内外の政治、経済、社会事情について、新聞などにより、周囲の会話に参加できる程度の一般常識がある。
 - (ウ) 人前で3分間程度のスピーチが原稿無しでできる。
 - (エ) 読解、計算などの基本的能力に自信を持ち、少なくとも一つ以上の外国語について日常基礎会話ができる。
 - (オ) 専門の業務に必要なコンピュータによる情報処理能力を身に付ける。

二 本学が目指す教職員の姿

- 1 本学教職員は、その目的意識(志)言動、姿勢をもって、学生に感動を伝えることを最大の価値とし、学生から敬愛され、評価される存在である。
 - (ア) 学生の人格と立場を尊重し、学業遂行、授業理解支援のために最善の努力を惜しまない。
 - (イ) 授業内外の指導、事務の応接などを通じて、人格的な感化を及ぼす存在である。

- (ウ) 学生の態度や習慣、身だしなみを指導するにあたって、率先してその範を示す存在である。
- 2 本学教職員は、地域に貢献し、評価される本学の、価値ある不可欠の構成員である。
 - (ア) 本学が目指す姿を自らのものとし、その達成に全力を尽くしている。
 - (イ) 自らの属する学部、学科、部課その他のグループ全体の向上、発展のために創意、工夫と献身的努力を惜しまない。
 - (ウ) 本学において、上司、同僚及び部下から敬愛される存在である。
 - (エ) 地域社会において、よき隣人であると共に、本学を代表して尊敬される存在である。
- 3 本学教職員は、その研究分野又は担当する事務の分野において、本学内外から評価され、尊敬される存在である。

三 本学園が目指す学園の姿

- 1 本学園は、上記の項目に掲げた資質を備えた学生の育成に全力を尽くすとともに、地域の社会人に開かれた存在である。
 - (ア) 理事会を中心とするリーダーシップの発揮と教授会、職員会議などによる教職員の意見申し出との調和が図られている。
 - (イ) 保護者、卒業生代表、地域、職域代表などからの意見を積極的に吸い上げ、地域に密着する教育目標の設定など学校運営の重要事項に反映している。
 - (ウ) 科目履修など、社会人教育の充実が図られている。
 - (エ) 公開講座、図書館利用など市民の便宜が図られている。
 - (オ) 周辺、近隣地域との結びつきに支えられている。
- 2 本学園は、学生及び地域社会を顧客とし、顧客満足を徹底している。
 - (ア) 専門的、目的的教育に関し、地元企業の発展の方向に即している。
 - (イ) 就職活動支援その他学生の面倒見の良いことで知られている。
 - (ウ) 学生の専門的な資格又は検定の取得支援の対策が充分である。
- 3 本学園は、教職員の十分な満足を得ている。
 - (ア) 本学園が顧客満足の成果を収め、教職員の創意工夫が生かされているなど、教職員に自己実現の満足感がある。
 - (イ) 本学園が内外の環境変化に対応して発展する意欲と能力を持ち、地域が誇りとし得る学園を目指すなど学園の将来に不安がない。
 - (ウ) 環境問題など今日的な関心事に率先して対応する積極性がある。
 - (エ) 学園の情報は充分に開示され、学園内の意思の疎通に支障がない。
 - (オ) 教職員は、能力とその成果によって酬いられ、かつその待遇は、県内類似の職種に比して劣るところがない。
 - (カ) 男女共同参画社会実現などの勤務環境が保証され、阻害要因是正の為の苦情処理制度が整備されている。

大学院が養成しようとする人材像及び教育目標

本学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻の教育研究上の目的は、臨床心理学とその関係分野において実践的な教育と研究を通じ、高度な専門知識を修得させるとともに、職業人として自律した心理臨床家を育成することにある。

看護福祉心理学部看護学科が養成しようとする人材像及び教育目標

看護学科の教育上の目的は、看護に必要な知識と技術を修得させるとともに、広く深い教養と豊かな人間性を培い、看護の専門職として国際社会において貢献することのできる人材を育成することにある。

看護福祉心理学部福祉心理学科が養成しようとする人材像及び教育目標

福祉心理学科の教育上の目的は、生命尊重・人間尊重の理念に基づき、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を図るため、福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力、および、豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門家を養成することにある。

短期大学部人間総合学科が養成しようとする人材像及び教育目標

人間総合学科の教育上の目的は、人生に目的（志）を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術（多様な資格と検定）を身につけた人材を養成することにある。

短期大学部幼児教育学科が養成しようとする人材像及び教育目標

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。

<新潟青陵高等学校>

教育理念「至誠」のもと、社会に有為な人間を育成することに努める。そのために目標として、「基礎的・基本的学力がつくよう努める。『授業時数の確保に努め、それぞれの授業に真剣に取り組む。家庭学習の時間の確保。』 規律正しい生活習慣が身につくよう努める。 学力を高め、大学等進学を積極的に推し進める。『特別進学コース、総合進学コースにおいて充実した指導。授業の年間計画（シラバス）、学習到達目標の明示。』 成績不振生徒に対してはきめ細かに指導し、中退防止に努める。 部活動、各種委員会を通し、人間形成の確立と技術・技能の練度、習得、高揚に努める。」を掲げ、きめ細かな指導に努め、本校の前進を目指している。

<新潟青陵幼稚園>

本幼稚園は、教育方針にシュタイナー教育の実践を掲げている。この教育は「やがて大人になった時に真に思考力のある自立した人間」となることを目指すものである。人格形成の基礎として、

幼児期には、意志、感性、感情を育てることが必要である。保育者は模倣の対象となるべく資質向上に努め、自然環境、良質な教材の利用、遊びを中心とした教育内容を計画し、幼児の意欲、コミュニケーション能力、想像力、創造性、感性を伸ばす教育を目指している。

2 沿革

| | |
|----------|--|
| 明治33年 4月 | 下田歌子女史の帝国婦人協会新潟支会により、修業年限3か年の学校「裁縫伝習所」として呱呱の声をあぐ |
| 7月 | 校名を「新潟女子工芸」と改称 |
| 43年 6月 | 西堀通り2番町に校舎新築 |
| 昭和13年 1月 | 財団法人組織に変更 |
| 19年 4月 | 校名を財団法人新潟高等実践女学校と改称 |
| 21年 4月 | 校名を財団法人新潟女子工芸学校と改称 |
| 23年 4月 | 学制改革により校名を新潟女子工芸高等学校と改称、併設中学校設置 |
| 26年 3月 | 私立学校法により学校法人組織に変更 |
| 32年10月 | 水道町1丁目に校舎新築移転 |
| 35年 4月 | 高等学校に普通科増設 |
| 36年 4月 | 高等学校の上に修業年限2か年の専攻科（短大の前身）を設置 |
| 37年 4月 | 高等学校に商業科増設 |
| 40年 4月 | 法人名を新潟青陵学園と改称、新潟青陵高等学校、新潟青陵中学校に校名を改称、新潟青陵女子短期大学を開学（被服科） |
| 42年 4月 | 新潟青陵幼稚園を設置 |
| 43年 4月 | 短期大学に幼児教育科増設 |
| 45年 4月 | 新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）新築 |
| 46年 3月 | 高等学校鉄筋4階建校舎増築竣工 |
| 47年 4月 | 高等学校鉄筋校舎増築、第2体育館新築竣工 短期大学に専攻科（服飾美術専攻、幼児教育専攻）増設 |
| 48年 1月 | 学園用地44,000m ² を購入 |
| 50年 4月 | 短期大学被服科を服飾美術科に改称 |
| 57年 4月 | 新潟青陵中学校廃止 |
| 61年 3月 | 高等学校鉄筋4階建校舎（管理棟）新築 |
| 62年 3月 | 高等学校鉄筋2層構造4階建体育館新築 |
| 平成3年 4月 | 新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）を廃止し、短期大学教育施設「3号館」に用途を変更 |
| 4年 4月 | 短期大学服飾美術科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に改称、新潟青陵幼稚園を新潟青陵女子短期大学附属幼稚園に改称 |
| 5年 4月 | 短期大学専攻科廃止 |
| 6年 4月 | 高等学校被服科を生活服飾科に改称 |

| | |
|------------|---|
| 平成 8 年 4 月 | 短期大学に福祉心理学科、国際文化学科増設 |
| 12年 4 月 | 新潟青陵大学（看護福祉心理学部看護学科、福祉心理学科）開学 |
| 12年10月 | 新潟青陵学園（新潟青陵高等学校）創立100周年記念式典挙行 |
| 13年 5 月 | 短期大学福祉心理学科廃止 |
| 15年 5 月 | 高等学校商業科廃止 |
| 16年 4 月 | 短期大学の名称を新潟青陵大学短期大学部に改称、人間総合学科増設、幼稚園の名称を新潟青陵幼稚園に改称 |
| 10月 | 大学キャンパスに校舎「5号館」新築 |
| 17年 4 月 | 新潟青陵大学福祉心理学科にソーシャルワーク、福祉ケア、子ども発達サポート、心理カウンセリングのコース制導入 短期大学部人間総合学科に人間総合、介護福祉のコース制導入 短期大学部生活文化学科、国際文化学科廃止 |
| 18年 4 月 | 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻（修士課程）開設 |
| 19年 3 月 | 財団法人短期大学基準協会による平成18年度第三者評価の適格認定を受ける |
| 5 月 | 大学キャンパス隣接地1,326.16㎡を購入 |
| 11月 | 新潟青陵大学認定看護師研修センターが、社団法人日本看護協会より認定看護師教育機関として認定される |
| 20年 2 月 | 大学キャンパスに校舎「6号館」新築工事着工 |
| 3 月 | 財団法人大学基準協会による平成19年度大学評価結果ならびに認証評価結果において大学基準に適合していると認定される |
| (20年10月 | 新潟青陵大学認定看護師研修センター開設) |

3 設置する学校の概要

1) 設置する学校・学部・学科等

新潟青陵大学

| | |
|-------------|--------------------|
| 大学院 | 臨床心理学研究科（平成18年度開設） |
| 看護福祉心理学部 | 看護学科（平成12年度開設） |
| | 福祉心理学科（平成12年度開設） |
| 新潟青陵大学短期大学部 | 幼児教育学科（昭和43年度開設） |
| | 人間総合学科（平成16年度開設） |
| 新潟青陵高等学校 | 生活服飾科（昭和23年度開設） |
| | 普通科（昭和35年度開設） |
| 新潟青陵幼稚園 | （昭和42年度開設） |

2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況

ア、18年度（募集年度）および19年度（入学年度）

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 入学定員 | 1 年 | 2 年 | | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|----------|------|-----|-----|---|---|----|------|------|
| 臨床心理学研究科 | 10 | 10 | 10 | - | - | 20 | 20 | 1.00 |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 入学定員 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-------------|------------------|-----|-----|-----------|----------|-----|------|------|
| 看 護 学 科 | 80 3年次 10 | 84 | 86 | 81 10 | 85 10 | 356 | 340 | 1.05 |
| 福 祉 心 理 学 科 | 100 3年次 10 | 129 | 126 | 125 11 | 118 5 | 514 | 420 | 1.22 |
| 計 | 200 | 213 | 212 | 227 | 218 | 870 | 760 | 1.14 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 入学定員 | 1 年 | 2 年 | | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|--------|------|-----|-----|---|---|-----|------|------|
| 人間総合学科 | 200 | 257 | 251 | - | - | 508 | 400 | 1.27 |
| 幼児教育学科 | 100 | 129 | 129 | - | - | 258 | 200 | 1.29 |
| 計 | 300 | 386 | 380 | - | - | 766 | 600 | 1.28 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 入学定員 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-------|------|-----|-----|-----|---|------|------|------|
| 普 通 科 | 360 | 372 | 273 | 302 | - | 947 | 1080 | 0.88 |
| 生活服飾科 | 36 | 29 | 39 | 20 | - | 88 | 116 | 0.76 |
| 計 | 396 | 401 | 312 | 322 | - | 1035 | 1196 | 0.87 |

【新潟青陵幼稚園】

| 学 科 | 入学定員 | 3 才児 | 4 才児 | 5 才児 | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-----|------|------|------|------|---|-----|------|------|
| 計 | 50 | 36 | 46 | 47 | - | 129 | 150 | 0.86 |

イ、参考：19年度（募集年度）および20年度（入学年度）の状況

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現 員 | 収容充足率 |
|----------|------|------|------|------|-------|------|-----|-------|
| 臨床心理学研究科 | 10 | 20 | 12 | 10 | 1.00 | 20 | 20 | 1.00 |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現 員 | 収容充足率 |
|-------------|-----------|------|------|------|-------|------|-----|-------|
| 看 護 学 科 | 80 | 340 | 168 | 84 | 1.05 | 340 | 350 | 1.03 |
| | 3年次 10 | 19 | 16 | 9 | 0.90 | | | |
| 福 祉 心 理 学 科 | 110 | 406 | 247 | 129 | 1.17 | 430 | 532 | 1.23 |
| | 3年次 10 | 22 | 13 | 13 | 1.30 | | | |
| 計 | 210 | 787 | 444 | 235 | 1.12 | 770 | 882 | 1.15 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現 員 | 収容充足率 |
|-------------|------|------|------|------|-------|------|-----|-------|
| 人 間 総 合 学 科 | 200 | 360 | 281 | 259 | 1.29 | 400 | 509 | 1.27 |
| 幼 児 教 育 学 科 | 130 | 515 | 164 | 130 | 1.00 | 230 | 259 | 1.13 |
| 計 | 330 | 875 | 445 | 389 | 1.18 | 630 | 768 | 1.22 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現 員 | 収容充足率 |
|-----------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|
| 普 通 科 | 360 | 1080 | 1025 | 354 | 0.98 | 1080 | 944 | 0.87 |
| 生 活 服 飾 科 | 36 | 50 | 47 | 28 | 0.78 | 112 | 91 | 0.81 |
| 計 | 396 | 1130 | 1072 | 382 | 0.96 | 1192 | 1035 | 0.87 |

【新潟青陵幼稚園】

| 3才児 | | | 4才児 | | | 5才児 | | | 収 容 定 員 | 現 員 | 収 容 充 足 率 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|-----|--------------|
| 募集数 | 応募数 | 入園数 | 募集数 | 応募数 | 入園数 | 募集数 | 応募数 | 入園数 | | | |
| 46 | 54 | 52 | 若干名 | 6 | 6 | 若干名 | 4 | 4 | 150 | 135 | 0.90 |

3) 役員・教職員の概要等

ア、役 員（平成19年4月1日現在）

| | 氏 名 | 就任年月日 | 重任年月日 | 選任条項 |
|-------|----------|----------|----------|--------|
| 理 事 長 | 関 昭 一 | 5. 4. 1 | 17. 4. 1 | 短大学長 |
| 常務理事 | 大 谷 一 男 | 6. 4. 1 | 18. 4. 1 | 理事会選任 |
| 理 事 | 吉 田 六左工門 | 59. 4. 1 | 16. 4. 1 | 同 上 |
| 理 事 | 坂 井 熙 一 | 3. 1.24 | 19. 4. 1 | 評議員会選任 |
| 理 事 | 橋 本 誠 | 12. 4. 1 | 16. 4. 1 | 理事会選任 |
| 理 事 | 石 本 隆太郎 | 14. 4. 1 | 18. 4. 1 | 評議員会選任 |
| 理 事 | 大 川 賢 一 | 19. 4. 1 | | 理事会選任 |
| 理 事 | 清 水 不二雄 | 18. 4. 1 | 19. 4. 1 | 大学学長 |
| 理 事 | 半 藤 保 | 15. 4. 1 | 19. 4. 1 | 評議員会選任 |
| 理 事 | 諫 山 正 | 17. 4. 1 | | 同 上 |
| 理 事 | 小 山 明 | 15. 4. 1 | | 高等学校長 |
| 監 事 | 大 掛 幸 子 | 10. 4. 1 | 18. 4. 1 | 理事長選任 |

監 事 赤 羽 良 樹 19. 4. 1 理事長選任
 監 事 藤 田 普 19. 4. 1 同 上

監事は、理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て理事長が選任する。

なお、吉田六左工門理事は、平成19年6月28日付けで辞任した。

イ、教職員（学長・校長・園長を含む）平成19年4月1日現在）

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講 師 | | 助手 | 計 | | 職 員 | |
|----------|----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 臨床心理学研究科 | 6 | 1 | - | 1 | 6 | 1 | 9 | 6 | - | - |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講 師 | | 助手 | 計 | | 職 員 | |
|-------------|----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 看 護 学 科 | 13 | 8 | 2 | 7 | 27 | 11 | 41 | 27 | 7 | 2 |
| 福 祉 心 理 学 科 | 11 | 6 | 1 | 1 | 41 | 3 | 22 | 41 | 7 | 3 |
| 計 | 24 | 14 | 3 | 8 | 68 | 14 | 63 | 68 | 14 | 5 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講 師 | | 助手 | 計 | | 職 員 | |
|--------|----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 人間総合学科 | 6 | 12 | 1 | 1 | 37 | - | 20 | 37 | 10 | 2 |
| 幼児教育学科 | 5 | 3 | - | 3 | 24 | - | 11 | 24 | 7 | 1 |
| 計 | 11 | 15 | 1 | 4 | 61 | - | 31 | 61 | 17 | 3 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 教諭 | 助教諭 | 講 師 | | 助手 | 計 | | 職 員 | |
|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 計 | 68 | - | - | 35 | - | 68 | 35 | 9 | 4 |

【新潟青陵幼稚園】

| 学 科 | 教諭 | 助教諭 | 講 師 | | 助手 | 計 | | 職 員 | |
|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 計 | 6 | - | 1 | 4 | - | 7 | 4 | - | - |

4 事業の概要

1) 当該年度の事業（経営）の概要

ア．新潟青陵大学

学生納付金収入は院生の増加や学生数の微増で前年比で2千957万円の増額決算となった。補助金収入も現代GPに係る補助金・新潟県大学「知の財産」活用事業補助金の採択等もあって対前年比で1千372万円の増額となった。2か年の継続事業として施工する6号館校舎建設費7億円のうち19年度支出額は3億5千万円で決算した。うち1億円は施設拡充引当特定預金を取り崩して充当し、市中金融機関から1億5千万円を借り入れ、残余の1億円は平成19年度の一般財源を以て充当し、短期大学部と費用按分して決算を行った。一方、人件費支出は、教員の増員（看護学科2人、福祉心理学科1人、大学院1人）等もあって対前年比で4千167万円の支出増となった。教育研究経費支出にあっても賃借料（教員用パソコンの更新）や報酬委託手数料（大学基準協会第三者評価手数料等々）の所要額の計上で2千449万円の増額決算となった。施設関係支出では大学キャンパス隣接地の拡張で6千3百万円、6号館校舎建設費の当年度支払分3億5千万円及び1号館外壁改修工事費2千100万円をそれぞれ短期大学部と費用按分して決算を行った。大学キャンパスは着実に満足度の高い施設・設備の内容に発展・進化しつつあると言える。前受金保有率は、前年度348.94%から370.95%に続伸して資金繰りは堅調である。消費収支計算では校地の拡張と校舎建設という積極的な設備投資に伴って基本金組入額は約2億3千万円となった。その結果、消費支出に充当すべき消費収入は大幅に減額されたため6千744万円の消費支出の超過となった。積極的な経営展開の一次的な所産と判断している。人件費率が前年度56.64%から57.10%に後退するものの、経営の状況は極めて堅調に推移している。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 納付金収入 | 1,208,578 | 人件費支出 | 806,153 |
| 手数料収入 | 22,788 | 教育研究経費支出 | 214,633 |
| 寄付金収入 | 484 | 管理経費支出 | 112,524 |
| 補助金収入 | 170,178 | 債務保証損失支出 | 0 |
| 資産運用収入 | 3,584 | 借入金等利息支出 | 12,274 |
| 資産売却収入 | 0 | 借入金等返済支出 | 60,462 |
| 事業収入 | 2,164 | 施設関係支出 | 233,249 |
| 雑収入 | 17,735 | 設備関係支出 | 40,779 |
| 借入金等収入 | 80,616 | 資産運用支出 | 590 |
| 前受金収入 | 243,075 | その他の支出 | 10,636 |
| その他の収入 | 62,797 | 学校法人経費按分額 | 12,111 |
| 資金収入調整勘定 | 252,670 | 資金支出調整勘定 | 6,517 |
| 内部取引勘定 | 0 | 内部取引勘定 | 0 |
| 前年度繰越支払資金 | 839,242 | 次年度繰越支払資金 | 901,677 |
| 計 | 2,398,571 | 計 | 2,398,571 |

補助金収入のうち国庫補助金収入 168,794千円・地方公共団体補助金収入 1,384千円(消費収支も同じ)

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|--|-----------|--------------|------------|
| 納付金 | 1,208,578 | 人件費 | 814,216 |
| 手数料 | 22,788 | 教育研究経費 | 304,833 |
| 寄付金 | 884 | うち、減価償却額 | (90,200) |
| 補助金 | 170,178 | 管理経費 | 115,730 |
| 資産運用収入 | 3,584 | うち、減価償却額 | (3,206) |
| 資産売却差額 | 0 | 債務保証損失 | 0 |
| 事業収入 | 2,164 | 借入金等利息 | 12,274 |
| 雑収入 | 17,735 | 資産処分差額 | 4,088 |
| | | 徴収不能額 | 0 |
| 帰属収入合計 | 1,425,911 | 債務保証損失引当金繰入額 | 220 |
| 基本金組入額合計 | 229,885 | 学校法人経費按分額 | 12,111 |
| 計 | 1,196,026 | 計 | 1,263,472 |
| 資金収支計算の前受金保有率（前年度） 370.95%（348.94%） | | 当年度消費収入超過額 | 67,446 |
| | | 前年度繰越消費収入超過額 | 214,002 |
| | | 年度繰越消費収入超過額 | 281,448 |

< 概説 >

学生数の確保も順調に推移し、資金繰りも安定的に推移している。人件費率の上昇傾向に警戒しつつも、引き続き、本学の特色づくりに鋭意努力するとともに経営戦略としてのグランドデザインとグランドデザインに基づく財政計画の立案も必要としている。6号館校舎完成後は、唯単に繰越支払資金を膨らますことは余り得策でないので、将来の改築計画に向けた基本金組入の拘束性のある資金蓄積を開始する時期に来ていると言える。

イ．新潟青陵大学短期大学部

学生数は収容定員600人に対して766人（5月1日現在）と安定的に維持して、学生納付金と手数料収入は前年並みの決算額となった。補助金収入、資産運用収入はやや増額の決算となった。大学同様に2か年の継続事業として施工する6号館校舎建設費7億円のうち19年度支出額は3億5千万で決算した。うち1億円は施設拡充引当特定預金を取り崩して充当し、市中金融機関から1億5千万円を借り入れ、残余の1億円は平成19年度の一般財源を以て充当し、大学と費用按分して決算を行った。一方、人件費支出は対前年比で1千173万円の減額決算となった。教育研究経費支出および管理経費支出は何れも対前年比で増額決算となった。賃借料（教員用パソコンの更新）などが増額の要因である。施設関係支出では大学同様に大学キャンパス隣接地の拡張で6千3百万円、6号館校舎建設費の当年度支払分3億5千万円及び1号館外壁改修工事費2千100万円をそれぞれ大学と費用按分して決算を行った。キャンパスは着実に満足度の高い施設・設備の内容に発展・進化しつつある。なお、高等学校と幼稚園に対する内部貸付金の累計額は2億6千598万円に達する結果となった。これらの内部貸付を行った上で、前受金保有率は前年度284.90%から258.29%に後退して内部貸付金のしわ寄せは一段と加速しつつある。連動して高校財務の改善が叫ばれている。消費収支計算では大学同様に校

地の拡張と校舎建設という積極的な設備投資に伴って基本金組入額は約1億8千万円となった。その結果、消費支出に充当すべき消費収入は大幅に減額されたため7千989万円の消費支出の超過となった。積極的な経営展開の一次的な所産と判断している。人件費率が前年度56.28%から56.91%にやや後退している。なお、経営状況は極めて堅調に推移しているものの内部貸付金の増大は短期大学部門に大きな影響を及ぼしている。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 納付金収入 | 774,160 | 人件費支出 | 495,657 |
| 手数料収入 | 18,119 | 教育研究経費支出 | 130,341 |
| 寄付金収入 | 0 | 管理経費支出 | 73,465 |
| 補助金収入 | 79,203 | 債務保証損失支出 | 0 |
| 資産運用収入 | 4,235 | 借入金等利息支出 | 12,160 |
| 資産売却収入 | 0 | 借入金等返済支出 | 62,638 |
| 事業収入 | 0 | 施設関係支出 | 201,805 |
| 雑収入 | 12,343 | 設備関係支出 | 22,369 |
| 借入金等収入 | 69,384 | 資産運用支出 | 1,596 |
| 前受金収入 | 287,280 | その他の支出 | 6,803 |
| その他の収入 | 69,964 | 学校法人経費按分額 | 7,417 |
| 資金収入調整勘定 | 292,856 | 資金支出調整勘定 | 3,481 |
| 内部取引勘定 | 187,303 | 内部取引勘定 | 265,980 |
| 前年度繰越支払資金 | 809,638 | 次年度繰越支払資金 | 742,023 |
| 計 | 2,018,773 | 計 | 2,018,773 |

補助金収入のうち国庫補助金収入 77,498千円・地方公共団体補助金収入 1,705千円(消費収支も同じ)

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|--------------------|---------|--------------|------------|
| 納付金 | 774,160 | 人件費 | 505,416 |
| 手数料 | 18,119 | 教育研究経費 | 171,169 |
| 寄付金 | 9 | うち、減価償却額 | (40,829) |
| 補助金 | 79,203 | 管理経費 | 78,990 |
| 資産運用収入 | 4,235 | うち、減価償却額 | (5,525) |
| 資産売却差額 | 0 | 債務保証損失 | 0 |
| 事業収入 | 0 | 借入金等利息 | 12,160 |
| 雑収入 | 12,343 | 資産処分差額 | 5,282 |
| | | 徴収不能額 | 433 |
| 帰属収入合計 | 888,069 | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| 基本金組入額合計 | 187,100 | 学校法人経費按分額 | 7,417 |
| 計 | 700,969 | 計 | 780,867 |
| 資金収支計算の前受金保有率(前年度) | | 当年度消費収入超過額 | 79,898 |
| 258.29%(284.90%) | | 前年度繰越消費収入超過額 | 462,058 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | 382,160 |

< 概説 >

学生数確保および資金繰り何れも堅調である。大学同様に人件費率の上昇傾向に警戒しつつも、引き続き、本学の特色づくりに鋭意努力する必要がある。また、経営戦略としてのグランドデザインとグランドデザインに基づく財政計画の立案も必要としている。6号館校舎完成後は、唯単に繰越支払資金を膨らますことは得策でないので、将来の改築計画に向けた基本金組入の拘束性のある資金蓄積を開始する時期に来ていると言える。

ウ．新潟青陵高等学校

生徒納付金収入、手数料収入、寄付金収入、補助金収入、何れも前年度並みの決算で変化のない平凡な決算となった。しかし、納付金収入と補助金収入のすべてが人件費支出に費消されるという面では異常な決算と言える。退職金の割り増し加算制度の廃止は焦眉の急であることは論を待たない。また、人件費率の比率からしても教員数の見直しも急務と言える。このような状況下において生徒への還元経費の支出は低調であると言わざるを得ない。また、借入金等返済支出は過年度の設備投資に伴う返済額1千690万円と前年度の退職金支払資金を確保するための市中金融機関からの借入金の返済額1億3千326万円である。平成16会計年度から始まった内部取引勘定（短期大学からの内部借入金）の累計額も今期末で2億2千755万円（対前年比6千890万円増）となった。前受金収入6千128万円の費消を加えると2億8千883万円の資金不足を来していることになる。また、消費収支計算での消費収支差額（赤字）が9千957万円となって慢性化から脱却できないでいる。累積赤字も18億円台に突入し、高校財務の経営状況は危険な状態を超えている。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 納付金収入 | 370,364 | 人件費支出 | 780,881 |
| 手数料収入 | 17,871 | 教育研究経費支出 | 79,610 |
| 寄付金収入 | 1,912 | 管理経費支出 | 23,072 |
| 補助金収入 | 414,020 | 債務保証損失支出 | 0 |
| 資産運用収入 | 65 | 借入金等利息支出 | 2,855 |
| 資産売却収入 | 0 | 借入金等返済支出 | 150,160 |
| 事業収入 | 0 | 施設関係支出 | 0 |
| 雑収入 | 76,713 | 設備関係支出 | 5,480 |
| 借入金等収入 | 77,420 | 資産運用支出 | 0 |
| 前受金収入 | 61,280 | その他の支出 | 3,787 |
| その他の収入 | 107,540 | 学校法人経費按分額 | 8,634 |
| 資金収入調整勘定 | 143,044 | 資金支出調整勘定 | 1,429 |
| 内部取引勘定 | 227,559 | 内部取引勘定 | 158,650 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,320 | 次年度繰越支払資金 | 1,320 |
| 計 | 1,213,020 | 計 | 1,213,020 |

補助金収入のうち地方公共団体補助金収入 414,020千円(消費収支も同じ)

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|--------------------|---------|--------------|------------|
| 納付金 | 370,364 | 人件費 | 780,881 |
| 手数料 | 17,871 | 教育研究経費 | 143,507 |
| 寄付金 | 2,629 | うち、減価償却額 | (63,897) |
| 補助金 | 414,020 | 管理経費 | 24,403 |
| 資産運用収入 | 65 | うち、減価償却額 | (1,331) |
| 資産売却差額 | 0 | 債務保証損失 | 0 |
| 事業収入 | 0 | 借入金等利息 | 2,855 |
| 雑収入 | 76,713 | 資産処分差額 | 626 |
| | | 徴収不能額 | 0 |
| 帰属収入合計 | 881,662 | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| 基本金組入額合計 | 20,329 | 学校法人経費按分額 | 8,634 |
| 計 | 861,333 | 計 | 960,906 |
| 資金収支計算の前受金保有率（前年度） | | 当年度消費収入超過額 | 99,573 |
| 2.15%（2.07%） | | 前年度繰越消費収入超過額 | 1,703,782 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | 1,803,355 |

< 概説 >

過去10数年間にわたって教員の新陳代謝を促進してきた割りに人件費比率の改善がはかばかしくない。改善の方策は、高校教育の魅力度を高めることによって得られる収容定員の確保と人件費の政策的抑制および退職金の割増加算制度の廃止に尽きると言える。高校発展の基礎財源（本来、積み立てていなければならない減価償却引当特定預金等が皆無の状態にある。）を費消している現下の状況から脱却する必要があると言える。参考までに内部取引勘定と前受金費消額の推移を以下に示す。

| | 内部取引勘定 | 前受金 | |
|---------|--------------|------------|-------------|
| 16会計年度末 | 15,371千円 | + 57,600千円 | = 72,971千円 |
| | (15,371千円) | | |
| 17会計年度末 | 63,877千円 | + 56,480千円 | = 120,357千円 |
| | (48,506千円) | | |
| 18会計年度末 | 158,650千円 | + 63,680千円 | = 222,330千円 |
| | (94,773千円) | | |
| 19会計年度末 | 227,559千円 | + 61,280千円 | = 288,839千円 |
| | (68,909千円) | | |

括弧内は、単年度相当額

工．新潟青陵幼稚園

園児数の減少で納付金収入が対前年比で372万円の減額となった。補助金収入も375万円の減額となった。一方、人件費支出は415万円の減額、教育研究経費支出と管理経費支出で470

万円増と乱高下の激しい決算となった。関連して内部取引勘定も悪化した。また、消費収支計算での消費収支差額（赤字）も1千260万円、消費収支差益率（消費収支差額／消費収入）でマイナス18.65%と大幅に悪化する内容となった。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 納付金収入 | 40,693 | 人件費支出 | 52,966 |
| 手数料収入 | 140 | 教育研究経費支出 | 9,113 |
| 寄付金収入 | 0 | 管理経費支出 | 14,947 |
| 補助金収入 | 24,876 | 債務保証損失支出 | 0 |
| 資産運用収入 | 308 | 借入金等利息支出 | 0 |
| 資産売却収入 | 0 | 借入金等返済支出 | 0 |
| 事業収入 | 1,085 | 施設関係支出 | 0 |
| 雑収入 | 311 | 設備関係支出 | 816 |
| 借入金等収入 | 0 | 資産運用支出 | 0 |
| 前受金収入 | 2,220 | その他の支出 | 153 |
| その他の収入 | 431 | 学校法人経費按分額 | 811 |
| 資金収入調整勘定 | 1,869 | 資金支出調整勘定 | 893 |
| 内部取引勘定 | 38,421 | 内部取引勘定 | 25,653 |
| 前年度繰越支払資金 | 50 | 次年度繰越支払資金 | 100 |
| 計 | 106,666 | 計 | 106,666 |

補助金収入のうち地方公共団体補助金収入 24,876千円(消費収支も同じ)

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|--------------------|--------|--------------|-----------|
| 納付金 | 40,693 | 人件費 | 52,966 |
| 手数料 | 140 | 教育研究経費 | 11,124 |
| 寄付金 | 398 | うち、減価償却額 | (2,011) |
| 補助金 | 24,876 | 管理経費 | 15,206 |
| 資産運用収入 | 308 | うち、減価償却額 | (259) |
| 資産売却差額 | 0 | 債務保証損失 | 0 |
| 事業収入 | 1,085 | 借入金等利息 | 0 |
| 雑収入 | 311 | 資産処分差額 | 137 |
| | | 徴収不能額 | 0 |
| 帰属収入合計 | 67,811 | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| 基本金組入額合計 | 179 | 学校法人経費按分額 | 811 |
| 計 | 67,632 | 計 | 80,244 |
| 資金収支計算の前受金保有率（前年度） | | 当年度消費収入超過額 | 12,612 |
| 4.50%（3.17%） | | 前年度繰越消費収入超過額 | 308,170 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | 320,782 |

<概説>

資金収支計算、消費収支計算何れも例年の構造に大きな変化はないが、悪化の度合いは深刻さを増しつつある。

2) 当該年度の主な事業の目的・計画

ア．新潟青陵大学

本学は、看護学科と福祉心理学科連携のユニークな教育体系の下に医療福祉面での地域社会に貢献できる人材養成という実学教育の実現を目指している。

看護学科では、看護学に関する専門の知識と技術を教授・研究し、広く深い教養と豊かな人間性を培うことによって、看護の基礎的諸能力を修得させることを目指し、国際社会において貢献することのできる有為な人材を育成することを目的にしている。これらの目的を実現のため「人間・生命の尊厳を守る意識を培い、自己の資質の向上に努める能力を養う。

他者を尊重し、自己をも尊重する建設的な人間関係を形成する能力を養う。看護に必要な知識・技術を学習することによって、よりよい看護実践ができる基礎的能力を養う。看護の諸現象について、論理的な思考のもとに、適切な情報の収集、科学的な分析、理論的な判断を用いて、有効な対応を考察できる能力を養う。専門的知識・技術を用いて、科学的な根拠に基づく安全・安楽な援助を提供できる能力を養う。社会における看護が担うべき役割を認識し、保健医療福祉領域の専門職および地域の人々との協力・連携のもとに、看護の発展に寄与する能力を養う。国際的な視野をもち、創造的な思考を深め、専門職業人として社会に貢献できる能力を養う。」の教育目標を掲げている。また、看護学科では看護師と保健師の一貫養成を行い、希望者には助産師もしくは養護教諭一種免許状を取得できるプログラムを用意している。

福祉心理学科では、本学の教育理念である「生命尊重・人間尊重の理念に基づき、国民の福祉と健康を支え、全人的な視点からこれを保障するという社会の要請に応えとともに、クオリティオブライフ(QOL)の向上を実現すべく、看護学科と福祉心理学科の連携のもとに教育・研究を行い、医療福祉面での地域社会に貢献できる人材の養成」を実現するため「人間の命と尊厳を守る力を育てる。人間を支えるための土台を識(し)る。人間を見つめ、社会との関連を考える。人間や地域と関わっていく精神を学ぶ。」の教育目標を掲げている。また、本格的な少子・高齢社会の進展に対応するため、保健、福祉、心理、医療に関する幅広い視点を兼ね備えた社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士の養成の他、介護福祉士、保育士、カウンセリング実務士、高等学校福祉科、公民科の教員養成のプログラムを用意している。

イ．新潟青陵大学短期大学部

人間総合学科人間総合コースは、学生の興味・関心・取得希望資格等に応じた多様な履修形態を可能にしたことを特色としている。幅広く学べる自由と目的別に集中して体系的に学ぶことを同時に満足させるために、きめ細かな履修指導を最重要課題にしている。認定資格である衣料管理士、ビジネス実務士、フードスペシャリスト等々、および、対策授業である検定試験により取得可能なカラーコーディネータ、医療事務、国内旅行業務取扱管理者等々の多様な職業に必要な知識と技能を授け、幅広い分野において活躍できる人材の育成を目的としている。また人間総合学科介護福祉コースは、介護に関する知識と技術の習得を目的と

した厚生労働省が指定する介護福祉士養成施設であって、あたたかい心を持った「介護のスペシャリスト」の育成に努めている。また、両コースとも社会人として協調性ある人材の育成という見地から「基礎ゼミ」や「社会生活とマナー」等々の授業を核にしてマナー指導の徹底を期している。

幼児教育学科は、幼稚園教諭と保育士の養成を目的にしている。教育基本法と児童福祉法の理念に基づき、将来を担う子どもの保育と教育の向上を目指して、ひとり一人の子どもの最善の利益のために努力し、自らを成長させる人間性豊かな保育者を育成することを教育理念に掲げて、学科の全教員が共通理解の下で学生をきめ細かく指導する体制をとっている。また、質の高い保育者を養成するとともに、保育現場から支持され、且つ、評価される人材を育成することになっている。さらに社会人としてのマナー指導も徹底して行うことにしている。

ウ．新潟青陵高等学校

学力の向上を目指して、基礎学力の定着に努め、常に学力の向上を目指す。英語、数学の習熟度別授業を展開すると同時に、平日講座、土曜講座、勉強合宿、小論文講座など各種講座の充実を図り、生徒の興味や関心を引き出すとともに大学受験に結びつく学力を身につけさせる。また就職講座を開催して就職希望の実現を図る。朝学習、小テストを実施し、きめ細かな指導を通して成績不振生の減少に努める。

社会に有為な人材の育成を目指して、基本的な生活習慣の醸成に努め、欠席・欠課・遅刻・早退の減少に努め、規律正しく明るく活発な高校生活を過ごせるよう、健康管理の徹底と健全な生活行動の奨励に努める。部活動、委員会活動を通し、人間形成の確立と技術・技能の練度、習得に努め、本校の発展を目指している。

エ．新潟青陵幼稚園

幼児が自ら興味や関心を持ち、主体的に活動を創造することができる環境を計画している。自然素材を利用した室内遊び、美しい色彩の体験、周辺の自然環境を利用して遊びを中心とした保育を行う。また、この遊びを中心とした保育を通して、幼児が達成感、挫折感、葛藤、充実感、友達と過ごす楽しさや気持ちを交わす喜びを味わい、折り合いをつける力、お互いに影響しあい高め合う等、こうした集団の教育力を十分に生かして人間関係の発達を促し、人格の基礎を育てることを目指している。

3) 当該計画の進捗状況等

ア．新潟青陵大学

本学は看護福祉心理学部に看護学科及び福祉心理学科を置き、統合し、専門職としての看護職及び社会福祉従事者の養成を目的としている。いわば、福祉に強い看護職、看護に強い社会福祉従事者を育成する学部構成を特色にしている。看護並びに福祉心理の両学科専攻生が体系的に共通に学ぶ教養基礎科目と学部共通の専門基礎科目とそれぞれの学科の専門科目或いは臨地実習、卒業研究などの体系的な学習を通して所要の成果を目指して鋭意努力を重

ねてきた。その成果の一つである国家試験或いは就職状況を次に列記する。

国家試験において看護学科では、看護師に75人、保健師に73人、助産師に16人が合格した。合格率は、看護師89.3%（昨年92.1%）、保健師77.7%（昨年100%）、助産師の合格率は100%（全国平均97.6%）（昨年100%）となった。なお、看護師は大学新卒の全国平均97.5%を下回り、保健師も全国平均91.9%のところ本学は77.7%と大幅に下回った。この結果は、8人の学生が看護師・保健師のいずれにも合格しなかったことが大きく影響している。今後、特に低成績の学生に対する有効な国家試験対策を再検討し、併せて4年次までの普段の学習成果の評価のあり方についても考える必要がある。こうした検討結果を踏まえ低成績の学生に対する新たな指導方法を工夫しながら、引き続き100%の合格率を目指す。

一方の福祉心理学科では、社会福祉士に38人、精神保健福祉士に7人が合格した。合格率は、社会福祉士21.1%（全国合格率30.6%）、精神保健福祉士43.8%（全国合格率60.4%）の結果となり、前年に比べてかなり低い合格率となった。今年度に関しては、例年以上の対策講座等を実施し万全を期したが、福祉職場の給与等が低く抑えられ中で、好景気となった一般企業等に就職する者も増え、何が何でもの資格取得とはならず、また、既卒者で現場に出てから資格取得を求められる中で受験した卒業生の合格率も低かったという要因も重なった。今後、資格取得を目指す全ての学生がただ漫然と受験するのではなく、学生の進路との相談等をきめ細かく行い、資格取得が必須である学生を中心に、学力の低い学生も含めてきちんとした対策を実行するとともに、卒業生への支援も視野に入れて、合格率の向上を図る必要がある。

就職の状況は、次のとおりである。

【職業紹介状況】

| 項目 | 看護学科 | | | 福祉心理学科 | | | 計 | | |
|--------|-------|------|------|--------|------|------|------|------|------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 就職希望者数 | 6 | 84 | 90 | 37 | 73 | 110 | 43 | 157 | 200 |
| 就職決定者数 | 6 | 83 | 89 | 36 | 71 | 107 | 42 | 154 | 196 |
| 就職率(%) | 100.0 | 98.8 | 98.9 | 97.3 | 97.3 | 97.3 | 97.7 | 98.1 | 98.0 |

【看護学科】

| | 看護師 | 保健師 | 助産師 | 養護教諭 | その他 | 計 |
|----|-----|-----|-----|------|-----|----|
| 県内 | 32 | 2 | 6 | 5 | 6 | 51 |
| 県外 | 29 | 2 | 3 | 4 | - | 38 |
| 計 | 61 | 4 | 9 | 9 | 6 | 89 |

【福祉心理学科】

| | 生活相談員 | 生活支援員 | 介護職 | PSW | MSW | 心理・児童他 | 一般企業等 | 計 |
|----|-------|-------|-----|-----|-----|--------|-------|-----|
| 県内 | 16 | 6 | 21 | 4 | - | 3 | 43 | 93 |
| 県外 | 1 | 2 | 3 | - | - | 2 | 6 | 14 |
| 計 | 17 | 8 | 24 | 4 | - | 5 | 49 | 107 |

< 概説 >

就職率は98.0%（前年96.2%）となった。就職先の内訳で見ると看護学科は、看護師68.5%、保健師4.5%、助産師10.1%、養護教諭10.1%、その他6.8%の割合である。また、福祉心理学科は、福祉関係職種54.2%、一般企業等45.8%の割合である。福祉職から一業企業等に就職を希望する学生が近年多くなってきている。一般企業への就職活動の時期は、福祉職とは違って早く、而も、競争が激しいため、早期から進路に対する明確化、動機付けをしっかりとサポートし、対応して行く必要がある。

なお、就職状況の中で就職を希望する学生の即戦力化が求められる一方で、正規雇用が減少しつつある。景気の回復により優秀な人材が福祉職から一般企業に徐々に移動しており、福祉関係の雇用環境の改善の声もあるが、暫くは今までの状況が続くと見られる。また、福祉の職場では、就職者を育てながら職場の理念の実現を図ってきたことを考えるとパートや非常勤雇用の中で、研修や教育が十分行われるのか、利用者支援のプロを育てる立場から考えると、雇用のあり方について養成校としても意見を述べ、改善を求めて行くことも必要である。

イ．新潟青陵大学短期大学部

人間総合学科は、多岐にわたる職業専門教育を可能にすることをねらいの一つとして、1年次の早い段階から自らの興味や関心、能力・適性を希望する職業に結びつける科目履修ができるよう編成した。また、煩雑化する履修指導に対しては、アドバイザー制、教学支援システム（N-COMPASS）などを活用して学生へのモニタリングを強化し、より柔軟で迅速な対応を行っている。

幼児教育学科にあっては人間性豊かな保育者を養成することの教育理念の下に「生命に対する畏敬の念を持ち、広い視野と慈しみの心で、人間及び子どもの本質を理解できる能力を養う。さまざまなものに共感する心、それを表現する力を養うことにより、豊かな感性と創造性を育む。保育や子育てを取り巻く現実を直視し、主体的かつ創造的に保育を実践できる能力を養う。」という教育目標を掲げて様々な取り組みと実践を行った。総じて、両学科とも所要の成果をあげることができたと言える。

就職の状況は、次のとおりである。

【職業紹介状況】

| 項目 \ 学科 | 人間総合学科 | | | 幼児教育学科 | | | 計 | | |
|---------|--------|------|------|--------|-------|-------|-------|------|------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 就職希望者数 | 8 | 195 | 203 | 9 | 104 | 113 | 17 | 299 | 316 |
| 就職決定者数 | 8 | 191 | 199 | 9 | 104 | 113 | 17 | 295 | 312 |
| 就職率(%) | 100.0 | 98.0 | 98.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 98.7 | 98.7 |

< 概説 >

本学では、学生に対して、キャリア教育の観点から、入学時より進路・就職支援関連のカリキュラムを複数用意し、更にタイムリーに就職活動をサポートする各種事業を実施することで、就業意識の向上と職業理解、就職活動への積極的な取り組みを促している。また、保護者を対象とした進路・就職をテーマとした懇談会、学生と教員および就職課スタッフとの複数回にわたるカウンセリング機能を強化した個人面談、県内主要企業人事関係者を外部特設会場に一同に集めた本学合同企業説明会などを通して、家庭・学生・大学・企業間の関係を密にしながら、最新の就職に関する情報を共有することで、長年にわたる就職活動を全面的に支援している。

ウ．新潟青陵高等学校

平成19年度新入生398人を迎えてスタート。新入生は入学式早々、高校生活の基本的な事項を学ぶことを目的としたオリエンテーション合宿を実施した。生徒の一日は始業前の朝学習から始まる。1年生は国語、数学、英語の基本的な問題を解くこと、2・3年生は国語・数学・英語の他、地歴公民、修学旅行の事前学習などに取り組む。平成20年度から50分6限・7限授業を展開することとなり、本年度が最後の45分7限授業となった。

普通科特別進学コースは7限終了後、平日講座を受講する。月・火・木・金の4日間（16：10～17：10）、国語・数学・英語・理科・地歴公民へのより深い理解を求めて実施した。土曜日は土曜講座、サテライン講座で学力の向上、模擬試験対策に取り組む。夏期休業中には3泊4日の勉強合宿を実施し、すがすがしい環境のもとに勉学に励む。

普通科総合進学コース、生活服飾科では教科指導の他に小論文指導、平日講座、受験講座を実施。生活服飾科は青松祭（文化祭）に向けてファッションショーの作品製作に取り組む。成績不振生徒に対しては保護者との連絡を密にして、昼休み、放課後、長期休業中に補習を実施している。

部活動においては卓球部（女子）が県大会総合優勝を果たした。インターハイには卓球、バドミントン、体操（男子）の各部が出場した。3月にはバレー部（女子）が全国選抜優勝大会（春高バレー）に、卓球部が全国選抜卓球大会に、それぞれ出場を果たした。

進路の状況は、次のとおりである。

【卒業生進路状況】

| 科 | 進路先 | 進 学 | | | | | 就 職 | その他 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|-------|------|----------------|-----|-----|-----|
| | | 大 学 | 短 大 | 医療系専門 | 専修各種 | 公共職業 能力開発施設 | | | |
| 普 通 | 男 | 36 | 11 | 4 | 28 | 1 | 15 | 9 | 104 |
| | 女 | 52 | 38 | 10 | 64 | - | 18 | 12 | 194 |
| | 計 | 88 | 49 | 14 | 92 | 1 | 33 | 21 | 298 |
| 生活服飾(女) | | 2 | 3 | - | 11 | - | 3 | - | 19 |
| 計 | | 90 | 52 | 14 | 103 | 1 | 36 | 21 | 317 |

< 概説 >

大学・短期大学の主な進学先は、次のとおりである。

普通科総合進学コース

新潟大学 3 人（経済 1 人、経済 2 人）、県立新潟女子短大（国際教養 4 人）、新潟青陵大学（看護 3 人、福祉心理 5 人）、新潟医療福祉大学（3 人）、新潟国際情報大学（9 人）、玉川大学（3 人）、東海大学（2 人）、東北福祉大学・日本大学・専修大学・亜細亜大学の各 1 人および新潟青陵大学短期大学部（人間総合 16 人うち介護福祉コース 2 人、幼児教育 5 人）

普通科特別進学コース

新潟大学 3 人（工学 2 人、教育 1 人）、新潟青陵大学（福祉心理 5 人）、新潟薬科大学（薬学 2 人、応用生命 1 人）、新潟医療福祉大学（1 人）、新潟国際情報大学（2 人）、青山学院大学・法政大学・専修大学・国土館大学・昭和音楽大学の各 1 人および県立新潟女子短期大学（英文 1 人、国際教養 1 人）

生活服飾科

文化女子大学（現代文化 1 人）、敬和学園大学（1 人）、新潟青陵大学短期大学部（人間総合 2 人）および杉野服飾大学短期大学部（服飾 1 人）

普通科総合進学コースにおいて、18年度（大学55人）を大きく上回る大学進学者となった。進学意識の高い生徒が演習クラスを希望し、取り組んだ結果と見る。県内大学進学者への指導を含めて、受験講座や推薦入試指導（面接、小論文）の成果が表れた。特別進学コースでは、推薦入試で新潟大学工学部に 2 人、一般入試で教育学部 1 人と複数名の国公立大学合格者を出した。また、成績上位者が力を発揮して青山学院大学の合格を果たした。生活服飾科はここ数年大学、短大への進学者はほぼ同様の数となっている。高校の就職は依然として厳しい状況であるが、本校においては昨年同様100%の就職率を達成している。2 年次からの就職講座を休むことなく受講し、受験対策に取り組んだ成果が表れている。

エ．新潟青陵幼稚園

本年度は当園の教育の基礎となるシュタイナー教育が、保護者の間にも浸透し、シュタイナー教育をさらに深めて欲しいという要望も多く聞かれるようになった。幼稚園と家庭との協力関係が築かれたことは、人格の基礎としての力を育むのに良い効果があった。

【主体的に遊びを創造する力】

幼児期にふさわしい教材、自然の素材を用意し、幼児がそれらの教材を自ら用い、遊びを創造していくことができる環境を整えていたところ、幼児は一つの自然木を、パンに見立て、電車に見立て、アイロンに見立てるなど、幼児の見立ての力を使い、自らの遊びに必要なものを想像によって生み出し、変化させ、自らの想像の世界を作り上げていた。また、周辺の自然環境に触れる機会を多くし、散策を実施したところ、植物を見分けようとする姿、植物を利用して遊びに取り入れる姿など自然に対して興味・関心をもった姿が見られた。これらは意欲の現れであり、主体的に生きる力の基礎となっている。

【人間関係の基礎的な力】

友だちと遊ぶにはお互いの意見の食い違いに気付き、自分の気持ちを言葉に表して、相手に伝えるということが必要になる。保育者は、幼児が友だちとぶつかり合っているときに、言葉の発達が不十分な幼児の気持ちを推測し言葉に表して、相手に伝えることができるように援助し、幼児が相手の気持ちを知る経験ができるようにしてきた。これら様々な場面をとおして、幼児が人間関係の経験を積み重ねることによって、他児の意見を聞き、且つ、自分の気持ちに折り合いをつけるということを学んでいた。幼児は、遊びをより面白くするには、友だちと気持ちを合わせ、協力することが必要であることを知り、多くの葛藤場面を乗り越えて、友だちとの関係を作っていこうとする姿が見られた。葛藤を乗り越えて遊びを継続することは、人と人とが共にあるうとする姿であり、そこに人との関係を築こうとする姿、人との関係を喜ぶ姿が見られた。こうした姿からは、友だちと心の深いところでつながろうとする人間関係の力が育っていることが分かる。

なお、シュタイナー教育についての要望が多くなっていることを踏まえ、シュタイナー教育に基づいた教育の内容、行事の内容を検討していくこと、また、教員の研修をさらに深めなければならないと考えている。今年度の当園の研修テーマは、19年度の新潟県教育課程研究協議会の協議テーマをうけて『自然とふれあい生活する中で、驚きや感動など心を動かす体験をするために必要な、環境の構成と教師のかかわり』として研修を続けてきた。このテーマを次年度も継続して、保育者が自然に対して積極的な関心をもって自然と関わった場合に、幼児にどのような影響があるか、幼児のどのような変化があるかについて、事例を基に研修し、プロとしての保育者のあり方を研修していきたいと考えている。

5 財務の概要

1) 平成19年度決算額

資金収支計算書(資金繰り表)

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 学生生徒等納付金収入 | 2,393,795 | 人件費支出 | 2,155,173 |
| 手数料収入 | 58,918 | 教育研究経費支出 | 433,697 |
| 寄付金収入 | 2,396 | 管理経費支出 | 233,465 |
| 補助金収入 | 688,277 | 債務保証損失支出 | 0 |
| 資産運用収入 | 8,192 | 借入金等利息支出 | 27,289 |
| 事業収入 | 3,249 | 借入金等返済支出 | 273,260 |
| 雑収入 | 107,102 | 施設関係支出 | 435,054 |
| 借入金等収入 | 227,420 | 設備関係支出 | 69,444 |
| 前受金収入 | 593,855 | 資産運用支出 | 2,186 |
| その他の収入 | 240,732 | その他の支出 | 21,379 |
| 資金収入調整勘定 | 690,439 | 資金支出調整勘定 | 12,320 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,650,250 | 次年度繰越支払資金 | 1,645,120 |
| 収入の部合計 | 5,283,747 | 支出の部合計 | 5,283,747 |

消費収支（損益）計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|----------|-----------|--------------|-----------|
| 学生生徒等納付金 | 2,393,795 | 人件費 | 2,172,995 |
| 手数料 | 58,918 | 教育研究経費 | 630,633 |
| 寄付金 | 3,919 | 管理経費 | 243,786 |
| 補助金 | 688,277 | 債務保証損失 | 0 |
| 資産運用収入 | 8,192 | 借入金等利息 | 27,289 |
| 資産売却差額 | 0 | 資産処分差額 | 10,133 |
| 事業収入 | 3,249 | 徴収不能額 | 433 |
| 雑収入 | 107,102 | 債務保証損失引当金繰入額 | 220 |
| | | 消費支出の部合計 | 3,085,489 |
| 帰属収入合計 | 3,263,452 | 当年度消費収入超過額 | 259,529 |
| 基本金組入額合計 | 437,492 | 前年度繰越消費収入超過額 | 1,763,896 |
| 消費収入の部合計 | 2,825,960 | 翌年度繰越消費収入超過額 | 2,023,425 |

貸借対照表

平成20年3月31日

単位 千円

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|-----------|-----------|--------------|-----------|
| 固定資産 | 7,451,447 | 固定負債 | 987,261 |
| 有形固定資産 | 6,754,074 | 長期借入金 | 629,040 |
| 土地 | 1,531,189 | 退職給与引当金 | 355,431 |
| 建物 | 3,662,423 | 債務保証損失引当金 | 2,790 |
| 教具校具及び図書等 | 1,210,462 | 流動負債 | 826,770 |
| 建設仮勘定 | 350,000 | 短期借入金 | 174,460 |
| その他の固定資産 | 697,373 | 未払金 | 12,176 |
| 流動資産 | 1,784,128 | 前受金 | 593,855 |
| 現金預金 | 1,645,120 | 預り金 | 46,279 |
| 預り資産 | 38,050 | 負債の部合計 | 1,814,031 |
| 未収入金 | 100,527 | 基本金 | 9,444,969 |
| 立替金 | 325 | 基本金の部合計 | 9,444,969 |
| 前払金 | 106 | 翌年度繰越消費収入超過額 | 2,023,425 |
| | | 消費収支差額の部合計 | 2,023,425 |
| 資産の部合計 | 9,235,575 | 負債・基本金等の部合計 | 9,235,575 |

2) 経年比較等

ア、貸借対照表

| 比 率 (× 1 0 0) | | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 |
|-----------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 消費収支差額構成比率 | $\frac{\text{消費収支差額}}{\text{脚注 (a)}}$ | 21.1 | 20.2 | 19.9 | 19.4 | 21.9 |
| 基本金比率 | $\frac{\text{基 本 金}}{\text{脚 注 (b)}}$ | 95.4 | 89.7 | 91.3 | 92.0 | 92.3 |
| 固定比率 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{脚 注 (c)}}$ | 105.4 | 109.3 | 103.3 | 100.4 | 100.4 |
| 固定長期適合率 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{脚 注 (d)}}$ | 96.0 | 93.8 | 90.4 | 88.7 | 88.6 |
| 流動比率 | $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$ | 135.3 | 159.7 | 187.2 | 205.1 | 215.8 |
| 前受金保有率 | $\frac{\text{現 預 金}}{\text{前 受 金}}$ | 161.7 | 203.7 | 254.0 | 279.7 | 277.0 |
| 総負債比率 | $\frac{\text{負 債}}{\text{総 資 産}}$ | 18.1 | 22.1 | 21.2 | 20.2 | 19.6 |
| 負債比率 | $\frac{\text{負債 - 前受金}}{\text{総 資 産}}$ | 11.2 | 15.6 | 14.7 | 13.7 | 13.2 |
| 基本金実質組入率 | $\frac{\text{脚 注 (c)}}{\text{脚 注 (b)}}$ | 75.9 | 71.1 | 72.8 | 88.4 | 72.5 |

a = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

b = 基本金 + 基本金未組入額

c = 基本金 + 消費収支差額

d = 基本金 + 消費収支差額 + 固定負債

イ、消費収支計算書

【人件費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 1 0 0) |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------------|
| 19 | 57.10 | 56.91 | 88.57 | 78.11 | 65.99 | $\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$ |
| 18 | 56.64 | 56.28 | 94.37 | 74.07 | 68.28 | |
| 17 | 52.53 | 54.58 | 91.48 | 84.40 | 65.90 | |
| 16 | 50.25 | 63.95 | 82.68 | 76.76 | 64.96 | |
| 15 | 56.62 | 63.72 | 82.83 | 74.79 | 68.28 | |

【教育研究経費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 1 0 0) |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 19 | 21.38 | 19.27 | 16.28 | 16.40 | 19.32 | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰 属 収 入}}$ |
| 18 | 20.78 | 18.97 | 15.81 | 11.19 | 18.67 | |
| 17 | 21.28 | 18.96 | 14.84 | 9.97 | 18.48 | |
| 16 | 21.03 | 20.34 | 15.13 | 12.50 | 18.87 | |
| 15 | 20.42 | 20.86 | 12.50 | 12.87 | 17.54 | |

【管理経費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|------|------|------|-------|------|--------------------|
| 19 | 8.12 | 8.89 | 2.77 | 22.42 | 7.18 | 管 理 経 費 帰 属 収 入 |
| 18 | 8.44 | 8.37 | 3.18 | 16.93 | 7.38 | |
| 17 | 8.31 | 8.42 | 3.36 | 16.15 | 7.69 | |
| 16 | 9.93 | 8.55 | 2.59 | 17.52 | 7.79 | |
| 15 | 9.89 | 9.24 | 3.23 | 19.03 | 7.85 | |

【消費収支比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 19 | 104.63 | 110.34 | 110.56 | 117.45 | 108.16 | 消 費 支 出 消 費 収 入 |
| 18 | 91.63 | 89.90 | 118.64 | 103.39 | 99.07 | |
| 17 | 91.89 | 89.64 | 115.21 | 112.20 | 100.13 | |
| 16 | 90.86 | 113.08 | 109.74 | 109.04 | 102.60 | |
| 15 | 95.82 | 99.93 | 108.19 | 111.65 | 102.10 | |

【経常経費依存率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|
| 19 | 103.54 | 99.91 | 257.12 | 195.20 | 127.68 | 消 費 支 出 納 付 金 |
| 18 | 103.22 | 97.78 | 283.56 | 179.48 | 131.00 | |
| 17 | 98.67 | 96.89 | 281.35 | 213.10 | 131.10 | |
| 16 | 96.67 | 111.61 | 249.71 | 168.66 | 129.79 | |
| 15 | 94.56 | 111.41 | 276.76 | 167.01 | 134.55 | |

【納付金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 19 | 84.76 | 87.17 | 42.01 | 60.01 | 73.35 | 納 付 金 帰 属 収 入 |
| 18 | 85.43 | 87.35 | 40.55 | 57.60 | 72.74 | |
| 17 | 85.20 | 86.18 | 39.18 | 51.87 | 71.29 | |
| 16 | 85.94 | 84.60 | 40.48 | 64.51 | 71.40 | |
| 15 | 92.06 | 84.89 | 35.88 | 63.89 | 69.97 | |

【寄附金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|------|------|------|-------|------|------------------|
| 19 | 0.06 | 0.00 | 0.30 | 0.59 | 0.12 | 寄 附 金 帰 属 収 入 |
| 18 | 0.05 | 0.01 | 0.27 | 0.28 | 0.10 | |
| 17 | 0.17 | 0.02 | 0.24 | 0.51 | 0.16 | |
| 16 | 0.39 | 0.00 | 0.46 | 0.26 | 0.30 | |
| 15 | 0.14 | 0.01 | 0.36 | 0.27 | 0.19 | |

【補助金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 19 | 11.93 | 8.92 | 46.96 | 36.68 | 21.09 | 補 助 金 帰 属 収 入 |
| 18 | 11.34 | 8.63 | 45.66 | 37.13 | 20.82 | |
| 17 | 11.13 | 9.05 | 46.28 | 29.39 | 21.18 | |
| 16 | 9.80 | 9.61 | 50.90 | 33.61 | 22.68 | |
| 15 | 3.64 | 13.32 | 49.32 | 34.24 | 22.44 | |

【基本金組入率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼 稚 園 | 学園全体 | 比 率 (× 100) |
|----|-------|-------|------|-------|-------|-------------------|
| 19 | 16.12 | 21.07 | 2.31 | 0.26 | 13.41 | 基本金組入額 帰 属 収 入 |
| 18 | 3.76 | 4.99 | 3.09 | 0.00 | 3.82 | |
| 17 | 8.51 | 6.85 | 4.33 | 1.49 | 6.66 | |
| 16 | 8.55 | 15.58 | 6.84 | 0.20 | 9.67 | |
| 15 | 9.14 | 5.36 | 8.22 | 4.43 | 7.80 | |

3) 過去5か年間の資産総額(純資産額)の推移

単位 円

| 年度 | 基本金組入額 | 消費収支差額 | 純 資 産 額 |
|----|---------------|---------------|---------------|
| 19 | 9,444,969,615 | 2,023,425,018 | 7,421,544,597 |
| 18 | 9,007,477,443 | 1,763,895,699 | 7,243,581,744 |
| 17 | 8,883,545,610 | 1,793,091,962 | 7,090,453,648 |
| 16 | 8,663,703,977 | 1,789,097,684 | 6,874,606,293 |
| 15 | 8,354,999,027 | 1,714,065,575 | 6,640,933,452 |